

えら病に関する研究 Ⅱ

ニシマス稚魚に対するパント テン酸投与について

家 坂 剛 正

マス類稚魚の鰓病には細菌性のものと栄養性のものがあり、細菌性のものは粘液細菌類の感染、栄養性のものはパントテン酸欠乏によるとされている。¹⁾昨年度の試験において病魚の鰓から分離した細菌によつて感染試験を行なつたが発病はみられず、原因は明らかとならなかつたので、今回は栄養面から検討を試みた。

試 験 の 方 法

- 1) 試験期間、昭和43年3月11日～5月1日 52日間
- 2) 供試魚、ニシマス稚魚、平均体重、0.14g、各区とも約4,900尾宛85cm×44cm×水深30cmのコンクリート水槽に放養
- 3) 用水、井戸水、注水量180ml/sec
- 4) 試験区、3区設定し、各区とも2面宛とし計6面を設けた。
 - A { 1. 飼料1kgに対しパンカルG 5.6g 混合
 - 2. " "
 - B { 1. 飼料1kgに対しカンパルG 2.8g 混合
 - 2. " "
 - C { 1. 無処理の飼料を給与
 - 2. " "
- 5) 飼料 パントテン酸投与区はパンカルG (第一製薬、1g中にパントテン酸カルシウム100mgを含む)を少量の水に溶かし、それを市販の餌付飼料にまぶして風乾させたものを給与した。給餌量は腹八分目とし、各区とも大体同量である。

結 果

本試験においてA・B・C区とも鰓病の発生がみられず、パントテン酸の効果はみられなかつた。業務地においても、例年と異なつて本病の発生はみられず、その原因については明らかでない。

飼 育 結 果

試験区		死亡尾数	取上重量	平均体重
A	1	297 ^尾	2.26 ^{kg}	0.492 ^g
	2	317	2.08	0.454
B	1	337	2.06	0.452
	2	336	2.01	0.441
C	1	349	1.92	0.423
	2	325	1.92	0.419

文 献

- 1) H. S. Davis, 1953: *Culture and diseases of game fishes.*
Univ. California Press, Berkely and Los Angels.